


特定非営利活動法人 日本免疫学会
 平成 30 年度 後期 **Tadamitsu Kishimoto International Travel Award**
 研究発表報告書

申請者氏名	豊島 翔太	会員番号	0033061	
申請者の所属・職名	日本大学 医学部 免疫・アレルギー学プロジェクトチーム IR・医学教育センター 博士研究員			
出席会議名	32 nd Symposium of the Collegium Internationale Allergologicum			
発表論文タイトル	Specific expression profiles of microRNA in human mast cell-derived exosomes in innate and acquired immunity			

実施結果：

この度は、Tadamitsu Kishimoto International Travel Award を賜り、ありがとうございました。岸本忠三先生をはじめ選考委員の先生方、本 travel award に推薦していただいた羅智靖先生、ならびに日頃から研究のご指導をいただいている岡山吉道先生に深く感謝いたします。

私は、2018年9月30日から2018年10月5日までスペインのマヨルカ島で開催された32nd Symposium of the Collegium Internationale Allergologicum に参加しました。本シンポジウムは2年に一度開催され、免疫学会などでは招待講演を行うような世界的に著名なアレルギー研究者が、口頭発表やポスター発表を行い、熱い議論が繰り広げられていましたが、とてもフレンドリーな雰囲気では進んでいきました。発表の内容は、コフォート解析、臨床研究そして基礎研究まで多岐にわたっており、アレルギーの研究分野には解決すべき課題が山ほどあることを改めて痛感いたしました。アレルギー疾患の根治に向け、臨床と基礎がタッグを組んで立ち向かわなければならないだろうと考えさせられました。

何度か国際学会には参加したことがありましたが、本シンポジウムで初めて口頭発表に演題が採択されました。著名な先生方の前で、英語でプレゼンテーションができる機会をいただき、いい経験をすることができました。私の発表ですが、自然免疫応答と獲得免疫応答におけるマスト細胞が遊離するエクソソームとそのエクソソームに内包される microRNA に着目した研究成果を発表しました。シンポジウム中や休憩時間でも、私の発表に対してコメントをいただき、今後の研究の方向性や論文作成を行う上で、多くのものを得ることができました。

私が発表したセッションでは、IL-33 についての演題が多く見られました。RS ウイルスに対するマスト細胞の応答における IL-33 の役割や IL-33 は、IgE を介するマスト細胞の活性化を減弱化させるなどの報告がありました。また、マスト細胞が有する tryptase がエクソソームに内包され、melanoma に取り込まれると、nucleosomal core histone 3 と nuclear lamin B1 を切断し、melanoma の細胞増殖を抑制するという発表があり、我々の研究とも近いところがあり、興味深く聞いていました。

ハワイや沖縄のような雰囲気のあるマヨルカ島で開催された本シンポジウムで得た経験を、今後の研究活動に生かしていきたいと考えています。